

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和2年度第1回相模原市子ども・子育て会議			
事務局 (担当課)	こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8315(直通)			
開催日	令和2年10月27日(火)～11月16日(月)			
出席者	委員	14人(別紙のとおり)		
	その他	/		
	事務局	/		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数
公開不可・一部不可の場合は、その理由	書面会議のため			
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 相模原市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について</p> <p>3 その他</p> <p>(1) 保育所等及び児童クラブにおける新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に関する対応策と支援等について</p> <p>(2) 相模原市幼児教育・保育ガイドラインの小冊子版について</p> <p>(3) 相模原市保育者ステップアップ研修の令和元年度実績報告及び令和2年度実施について</p> <p>(4) 令和2年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について</p> <p>(5) 令和2年5月1日現在の児童クラブ待機児童数について</p> <p>4 閉 会</p>			

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

(審議を書面等で行った理由)

新型コロナウイルス感染症のまん延を防ぐために、委員等が一堂に会する方法により会議を開催することが困難であったため、書面により委員の意見を求め、回答を得ることにより会議の開催に代えることとした。

1 開 会

2 議 題

(1) 相模原市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について

- 教育・保育の需給計画に関して、検証結果からも1・2歳児の受入枠の拡充には保育人材の確保が必要である。施設の増設以外の取組方策について、今後どのように考えているか。

施設整備によらない待機児童対策として、保育士の人材確保に向けた取組、年度限定保育事業、幼稚園等既存施設の活用等を引き続き進めていきたいと考えている。

- 3号認定において申込数に対し提供数が不足しているのは1・2歳児のみで、0歳児は1・2歳児の不足数を大幅に上回る提供過剰が生じている。1・2歳児の定員確保のためにも、幼稚園型認定こども園に対する施設拡充支援や、公立保育所の0歳児定員の廃止、幼保連携型認定こども園の0歳児定員・土曜開所に関する認可要件の緩和などが必要ではないか。

1・2歳児の待機・保留児童の発生及び0歳児の定員の空き状況の解消のため、複数の公立保育所において0歳児の受入枠を縮小し、1歳児枠にスライドさせる取組を令和2年度から実施している。定員の変更や要件の緩和については、周辺園の定員の状況等を鑑み実施の検討を行う必要があり、一律的な対応をとるのは難しい状況がある。

- こんにちは赤ちゃん事業は、原則として全ての乳児のいる家庭に訪問すると法に定められているため、100%を下回る場合は、理由を問わずにA評価とはならないのではないかと。

長期里帰りで他市町村での訪問を受けた場合は本市の訪問実績に入らないことや、長期入院等で訪問ができない家庭もあることなどの状況も踏まえての評価としている。訪問ができない場合についても、子育てに関する情報提供や育児状況の把握、相談支援等を実施している。

- 産後ケア事業の開始について、情報共有を進めていただきたい。
令和3年1月からの産後ケア事業の開始に向けて、実施施設への事業説明を進めるとともに、情報共有を図っていく。
- 現在小学校では、週に1日、青少年教育カウンセラーが配置されている。子どもや保護者への専門的なアドバイスの必要もあり、日数の充実が求められる。
青少年教育カウンセラーの小・中・義務教育学校への配置については、学校が抱える課題の状況や学校規模を考慮して決定しており、今後も配置の充実に努めていく。
- 児童クラブの課題として、学校との連携を図り、校庭開放などにより子どもたちの遊び場を確保する必要がある。また、各施設の意見や課題を把握するための情報交換会の実施回数や時間が少なく、意見の反映等が十分でないと感じている。
学校や教育委員会とは常に連携をとっているが、校庭などの学校施設の利用に当たっては、各学校で状況が異なるため個別に対応している。また、情報交換会については、多くの民間児童クラブから貴重な意見や要望を伺っているため、今後も必要に応じて開催していくが、その他にも各クラブからの意見等には、個別に対応しているところである。
- 民間児童クラブの減免措置家庭の児童の育成料の補助について、早急に実施してもらいたい。
民間児童クラブは、各クラブの運営方針と経営状況に基づいて独自に育成料額を設定し、保護者から徴収しているため、市で減免額を補助することは様々な課題があると認識している。
- コロナ禍における親の失業や経済状況の悪化、テレワーク等の就労形態の変化等により、家庭での子育て環境も大きく変化している。子どもや子育てに関わるすべての人の実態やニーズを把握して、「with コロナ / after コロナ」の社会を見据えた、より良い事業を推進してもらいたい。
本市では、新型コロナウイルス感染症に係る子育て世帯への影響等を把握し、子育て支援施策の立案等に有効な資料とするために、令和2年9月23日から10月7日にかけて0歳から17歳までの子どもの保護者を対象としたアンケート調査を実施した。本調査の結果や国の動向等を踏まえ、より効果的な子育て支援施策を推進していきたいと考えている。
- 発達障害のある児童生徒で不登校になってしまった場合であっても、コロナ禍でのリモート授業には参加できた児童生徒もいるという事実を把握していただきたい。勉強は嫌いではないが、同級生や担任などの人と上手く付き合えないばかりに、教育を受けられないといった状況がないようにしなければならない。成長する中で許容範囲が広がり、自信もつき、授業に参加できるようになった時に、授

業についていける知識をつけてあげること、また、大人になったときに自立して暮らせるようにしてあげることが大切であり、今後の教育の在り方の方向性の一つとして受け止めてもらいたい。

G I G Aスクール構想により、本市でも児童生徒1人1台のタブレットPCを活用した学習が令和3年度から始まる予定である。その中で、家庭と連携を図りながら一人一人の教育的ニーズに応じたICTの活用について検討を進めていく。

3 その他

(1) 保育所等及び児童クラブにおける新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に関する対応策と支援等について

- 児童クラブの支援の内容にマスクや消毒用エタノール等の配布とあるが、一般にも出回るようになってからの支援であって、本当に不足している時期には配布されていなかった。新型コロナウイルスがまだどういうものかも分からない中、子どもを安全に預からなければならなかったため、もっと早くに支援してもらいたかった。

令和2年2月から5月頃にかけては、マスクや消毒液等は流通量が少なく、市でも入手困難な状況があったが、可能な限り提供していた。入手できたものについては、迅速に各施設に届くよう、市職員が直接届けるよう努めた。

- 全国では、保育所でのクラスター感染が確認されており、家庭内感染も増加している。その中で、保育者の不安も増大しており、勤務の変更なども余儀なくされている状況がうかがえるため、待遇や支援等を考えていく必要がある。医療従事者に給付された慰労金のような支援について、市の考えがあるか伺う。

保育者に対する支援等としては、メンタルヘルス相談窓口を開設し精神的なケアに取り組むとともに、施設への実地指導の機会等を利用し、適切な給与支払がなされているか確認している。慰労金については、保育者の重要性を鑑み、全国的に給付すべきものであると考えており、国に予算措置等を要望している。

- 児童クラブ等で、屋外から室内に入る際の手洗いの啓発はされているが、うがいに関する啓発が少ないように感じる。

児童クラブ等では、日頃から手洗いとともにうがいを励行し、児童にも指導している。

- 感染防止のための取組や支援、利用者への対応は良かったと思う。児童クラブでの生活についても具体的な方法が示されているが、昼食やおやつの際の密集しない座り方などは、利用者数の多い児童クラブでも実施されているのか、現場での状況を伺う。

利用者数の多い児童クラブでは、密集することがないように、分散や時間をずらすなどして、ガイドラインに沿った運営をしている。また、向かい合わせに座らないよう工夫するとともに、座卓やテーブル、パーテーションなどを購入し感染防止対策を講じている。

(2) 相模原市幼児教育・保育ガイドラインの小冊子版について

使用しているイラストの一部に、多様性を反映していないものが含まれているように感じる。

性別に関係なく、共に子育てしている状況が伝わるよう、イラストの一部を変更する。

- この小冊子は、どのように保護者や地域の方に周知するのか、具体的な方法を教えてもらいたい。

令和3年2月に実施する「幼児教育・保育ガイドラインの理解と活用」の保育者研修や園長会等において、小冊子の主旨や啓発について説明し、保育施設から保護者へ周知を行う。また、地域の民生委員やこどもセンター等に向けての周知も併せて行い、電子媒体による活用を伝えていく予定である。

- QRコードが記載されており、知りたい情報をすぐに調べることができて良いと思う。子育ては、祖父母等も関わることが多いので、文字をもう少し大きくしてはどうか。

文字が多い印象にならないように、デザインしたものである。関係機関等へは紙媒体を配布するが、保護者や地域の方々には電子媒体による周知を考えているため、拡大して見ることも想定して作成している。

(3) 相模原市保育者ステップアップ研修の令和元年度実績報告及び令和2年度実施について

- 保育の質の向上を目的とする研修であるにもかかわらず、職員体制が整わないために受講できていないという園が多くある。日々、最低限の人数で運営しているのではないかと感じられるため、対策をとるべきである。

施設長には、保育者の研修への機会の確保が求められている。市ではより多くの保育者に研修機会の提供をしていくため、令和3年度から電子配信による研修の実施も検討している。

(4) 令和2年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について

- 待機児童対策として、保育施設の整備等が行われてきたが、共働き世帯の増加による保育需要は上昇しているものの、出生数は年々減少しており、コロナ禍に

おいてはさらに減少することも見込まれるため、これからの保育需要にも変化が生じると思われる。産後ケア事業も開始されることから、それらに対応するための保育サービスの拡充を図る必要があるのではないかと。

待機児童対策については、保育ニーズの高い地域や年齢などの保育需要の動向を踏まえながら、すくすく保育アテンダントによる相談支援の実施、保育人材の確保、幼稚園の活用等を行っていく。また、保育サービスの拡充については、子育て家庭の個別のニーズに合った取組を進めていきたいと考えている。

- 保育人材の確保に関する報告が具体的に記載されているが、この中には、幼稚園由来の認定こども園や幼稚園に勤務する保育者への支援が含まれていない。保育の受け皿の数値には、これらの施設の定員も含まれているにもかかわらず、支援がないのは不合理であり、速やかに是正すべきである。

市内の認定こども園等に就労する保護者に対しては、保育所の入所調整において、選考基準調整点数を加算することや、相模原市幼稚園・認定こども園協会を通じて、包括的な人材育成・確保に係る説明会等の開催に要する経費の一部を補助している。

(5) 令和 2 年 5 月 1 日現在の児童クラブ待機児童数について

- 待機となった児童については、近隣の民間児童クラブやファミリー・サポート・センター等を紹介するなど、児童が放課後に安全に過ごせるよう取り組んでもらいたい。また、育成料等の相談についても、保護者と話し合うことで解決に繋げるなど、市民に寄り添った行政であってほしい。

保護者から児童の預け先の相談があった際には、民間児童クラブやファミリー・サポート・センターについて積極的に案内をしている。育成料の減免制度については、保護者への説明会等で詳しく説明や周知を行うなどの対応をしている。

- 定員に対して入会児童数が下回っていることから、地域によって入会希望者数の偏りがあると考えられるが、どの地域に集中しているのか。また、市として今後どのような待機児童対策を考えているのか。

J R 横浜線の沿線などの地域で、児童クラブの入会希望者数が増加している。市では、小学校の余裕教室等を活用して、市立児童クラブを整備するとともに、民間児童クラブと連携をして、より多くの児童が児童クラブを利用できるよう定員拡大を図っているところである。

- 本市はこどもセンター内に児童クラブがあり、施設内に多くの児童が詰め込まれているような状態がある。本来、地域の子どもたちが使う場所も使わざるを得ない状況で運営していることに加えて、現在は感染防止のためのソーシャルディスタンスを保つ必要があるため、所管部署だけでなく市全体としてどのようにす

べきか根本的に見直しをしていく時期なのではないかと思う。

こどもセンター内の児童クラブでは、児童クラブ室で人数が収まらない場合には、集会室等を時間帯で利用したり、学校の余裕教室にクラブ室を整備するなどの対応を行っているところである。引き続き、こどもセンターを利用する一般来館の児童に影響が生じないように配慮していく。

このほか、委員所属の各団体等の新型コロナウイルス感染防止対策に関する特徴的な取組等について、情報交換を行った。

4 閉 会

相模原市子ども・子育て会議委員名簿

(五十音順)

氏 名	推 薦 団 体 等	出 欠
1	大 木 真 理 相模原市立小学校長会	出 席
2	片 山 知 子 元 和泉短期大学児童福祉学科教授	出 席
3	久 保 田 修 相模原商工会議所	出 席
4	笹 野 和 子 公募市民	出 席
5	園 田 巖 東京都市大学人間科学部准教授	出 席
6	田 川 継 世 一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出 席
7	中 島 清 美 公募市民	出 席
8	永 保 貴 章 一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出 席
9	西 谷 八千代 みらい子育てネット さがみはら連絡協議会	出 席
10	馬 場 眞由美 相模原市民生委員児童委員協議会	出 席
11	藤 井 春 美 相模原市学童保育連絡協議会	出 席
12	松 浦 千鶴子 日本労働組合総連合会神奈川県連合会 相模原地域連合	出 席
13	松 原 充 子 特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出 席
14	三 浦 友 則 相模原保育室連絡協議会	出 席

会長 副会長